

■会議結果報告書■

会議名称	第14回札幌市子どもの権利委員会
日時・会場	平成23年10月25日（火）16：30～18：00 S T V北二条ビル6階A・B会議室
出席委員	11人出席

議題	概要等
1. 議題 (1) 子どもの権利に関する広報活動について	○資料3、4に基づき事務局から説明 委員長：委員会として広報についてまとめたものを示したので、札幌市にはこれを踏まえて今後とも子どもの権利の啓発を進めてもらいたい。
(2) 子どもの権利委員会おすすめ本の紹介について	○資料5について、事務局から今後の活用方法についての説明 ・子どもの権利の日など市が実施する事業などでPRしたい。 (意見交換) ・本の推薦について、前回の委員会では不安もあったが、そろったものを見ると委員それぞれの観点からバラエティに富んでいる。見た人が自分のセンスに合ったものを選ぶことができ、多様になってよかった。ただ、数が少ないと感じる。 ・次期の委員会でもおすすめ本を集めると数も増え、よりバラエティにも富む。 ・できあがったものをどのように各学校に情報提供していくのか。選んだ本が十分にそろろうよう全部の学校には無理でも、拠点の学校に入れるなどの体制を考えることも方法。 ・選んだ本を読んだ時にどのような印象を持ったのか、感想を寄せる何らかの形があってもよい。また、子ども自身が紹介する本があってもよいのではないかと。 ・イベントの際に、大人に読んでもらいたい本をアンケートするのもよい。また、せっかく推薦しても店頭になかったり、学校の図書館になかったりすると悲しいので、市の予算で学校に配布してもらえるとよい。 ・いい本が出たので、たくさんの人に見てもらいたい。 ・イベントなどで、1冊ずつそろえて手にとって見るようにしてもらいたい。ただパンフレットをつくるだけでは、インパクトが弱い。 (事務局) 紹介する以上、その本がないと意味がないため、図書館と連携するなど調整したい。また、現在子どもの権利の日についても企画を検討中のため、あわせて検討したい。 ・小説などでも子どもの権利に関わるものはあると思う。今後、アシストセンターの職員からの紹介や開放図書館での紹介もできるのではないかと。 ・これから本の冊数が増えるのであれば、読書感想文コンテストを開くと、子どもがもっと読んでくれるのではないかと。 委員長：今回の意見も受け止めていただき、次期委員会でもよりよい方法を考えてもらうことを引き継ぎたいと思う。
2. その他	○事務局 ・議題ではないが、手稲区の子どもの自殺した事件についての調査報告がまとまったので、報告書を配布した。この報告書は、プライバシーに関わる部分を含むことから、子どもの権利委員会の委員という立場で渡している。コピーをしないなど、取扱いには注意願いたい。 (意見交換) ・この件ではないが、16歳の少女の件についても重大な子どもの権利の侵害だと思うが、市として何か分かっていることはあるか。 (事務局) 教育委員会でも数回訪問しているが、会えていない状況もあった。詳細を把握できないうちにあのような事件が起こった。 ・学校では子どもを守るため懸命に取り組んでいる。子どもを手厚く守っていくための人や条件を社会全体で動く必要があるのではないかと。 ・学校だけに任せるのではなく、関係機関が連携し、どう防ぐか、その後のことを考えるかが必要。子どもの権利委員会として中立的な場として、どこまで目配りできるのかということも提言していくことも大事である。 ・学校の先生だけが負担を背負うことにならないよう、負担を軽減することが必要である。

・先日札幌弁護士会が主催したいじめに関する講演など、そのような機会が多くあるとよい。学校だけではなく、家庭、学校、地域が一体になってやらないと難しい。

・学校で行うことには限界があり、家庭がすべてだと思う。教育と福祉だけでフォローしようとしても隙間が大きくこぼれおちてしまう中に法律という網をかけるも手なのではないか。地域もそうだし、児童相談所の人員増など、学校以外での子どものあり方についてももう少し目配りできるような体制づくりを札幌市は本気になってなっていくべき。今回の報告書について、辛らつなことを書いているが、学校がやるにはこれが限界である。もっと深く家庭の状況や友人の意見を聞くのであれば、弁護士や警察などが介入しないと根本的なものにはならない。この報告書は教育委員会が自己防衛的に作ったものという印象を受けた。今までタブーだったところに真正面に取り組む必要がある。

・学校に来ない子どもがいた場合、保護者が行かせたいと思っている場合は学校としてもいろいろとできるが、そうではない場合学校では何もできない状況で子どもに向かわなければならない。

・いじめはあってはならないということを広める活動を子ども、あるいは子どもの権利委員会でもできるとよい。子どもが小さいころからそのように言われていけば、大人になってからも分かるのではないか。そのように少しずつよい札幌市になっていけばよい。

・教師の負担が大きい中で、行政や地域の連携で負担を少しずつ減らしていただきたい。

委員長：子どもの権利委員会が機関としてより発展していくためには、メンバーが変わってさらに進むことも必要。今後よりよい中で運営されていくことを望む。子どもの権利委員会の委員の職が終わっても、それぞれが各面で子どもの権利の視点を持って発言していただきたい。

以上